



機能性育種～天候に負けない！

地球環境の変化に対応する！

人類、そして植物を取り巻く環境は年々厳しくなってきました。そんな厳しい環境でも生き続ける植物があります。このページでは耐候性により、どのようなメリットがあるかをご紹介します。

- ・ 生産者にとっての耐暑性
- ・ エンドユーザーにとっての耐暑性
- ・ 生産者にとっての耐寒性
- ・ 植栽関係者にとっての耐風性
- ・ 花壇における耐日射性
- ・ 意外と耐える？耐陰性

生産者にとっての耐暑性～コロッサス



暑さ対策が必要なのは生産者にとっても同じです。

特に冷涼な環境を好むパンジー・ビオラでも8月に播種のピークを迎え、暑さを乗り越えて、初秋から店頭に並びます。

育種家はコロッサスをPowerful（パワフル）と表現していますが、シーズン初めは耐暑性を持ったコロッサスが欠かせません。

エンドユーザーにとっての耐暑性～カリエンテ、ダーラ

ペンタス、ランタナ、ポーチュラカ、、、作目として耐暑性を持った作目は多くあります。

シンジエンタは同じ作目でも特に暑さに強い品種を取り揃えています。

毎年成田シードセンターではフィールドに定植し、エンドユーザー目線での耐暑性の確認をしています。



2019年8月2日撮影 カリエンテ
(出願中、PEQZ0047)

ゼラニュームの中でも最も暑さに強いカリエンテ。暑さの中でも咲き続けます。



2014年7月14日撮影 ダーラ

初春から咲き続けるため、可憐なイメージのディアシア'ダーラ'。そのイメージとは裏腹に盛夏を迎えるまで咲き続けます。

生産者にとっての耐寒性～トップスピン

ベゴニアに耐寒性。違和感を感じる方も多いと思います。
しかし、春の出荷に向けて、寒い時期に栽培するため、重油コストがかさみます。
トップスピンは低温でも栽培できることを目標に育種され、重油コストの削減に貢献します。



夜温5°C設定温室栽培：2019年4月19日撮影

植栽関係者における耐風性～マム



9月10日 台風通過翌日



10月7日 台風通過1か月後

2019年、千葉県を直撃し未曾有の災害をもたらした台風15号。多くの植物が傷ついた中、マムはその暴風をものともせず、1か月後にはキレイに咲き誇りました。

秋の植栽の定番になりつつあるマム、台風が多い時期でも安心して使えます。

花壇における耐日射性～トップハット



撮影：2019年8月2日
成田シードセンター

大輪性が大きな魅力のトップハット。強日射にも負けず生き続け、咲き続けることができます。大きな花のインパクト、強い生命力で植栽現場、ご家庭の花壇を彩ります。

意外と耐える？～耐陰性

日陰で育つ植物はないの？という相談をよく受けます。典型的なのがインパチェンス類、ベゴニア類です。しかし、屋外であればそれなりの反射光もあり、空気流動もあるため、花をキレイに咲かせることができます。

環境に合わせた品種選びが重要ですが、ある程度の妥協をすることが必要になることがあります。



環境に合わせた品種選びが重要です

- ・生産者にとっての耐暑性
- ・エンドユーザーにとっての耐暑性
- ・生産者にとっての耐寒性
- ・植栽関係者にとっての耐風性
- ・花壇における耐日射性
- ・意外と耐える？耐陰性

栽培、楽しみ方に合わせた品種選定が重要です